

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年11月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1590200075
法人名	社会福祉法人 長岡三古福祉会
事業所名	グループホームまきやま
所在地	新潟県長岡市横山町1155-1 (電話) 0258-29-2591

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 8月 8日

【情報提供票より】( 20年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	10人 常勤 8人、非常勤 2人、常勤換算 8.15人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階 建ての 1階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要 ( 20年 7月現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	82 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三島病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームまきやま」は、同法人の特別養護老人ホームに隣接して、平成19年10月1日に開設したグループホームである。雪国特有のせいがい造りを採用した重厚感のある平屋の日本家屋であり、内装も落ち着いた雰囲気である。床には桐材を使い、利用者も職員等もスリッパなどの内履きを履いておらず、木のぬくもりを足裏に感じることができてとても心地よいと好評である。吹き抜けの天井と床の桐材の効果で、夏は涼しく、冬は床暖房と同じくらいの暖かさがある。ホームの敷地もゆったりしており、以前の土地所有者から譲り受けた日本庭園では散歩をしたり、時にはお茶や食事を楽しむこともある。また、畑もあり、調査当日も数名の利用者と職員がナスを収穫し、昼食の食材としていた。同法人の特別養護老人ホームやグループホーム、託児所等との交流のほか、隣に住む地域住民との近所づきあひも日常的に行われている。利用者が地域の一員として、広くいろいろな年代の人と交流を楽しめるよう努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全員に自己評価のシートを配布し記入してもらうことで、開設以来取り組んできた自分たちのケアの振り返りになったと受けとめている。自己評価の結果をもとに、庭や外に面した居室のはき出し窓の鍵を開放するなど、利用者や家族にも説明しながら具体的な改善に取り組み始めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>年5回、同じ敷地内のグループホームと合同で実施している。利用者と家族が2名ずつメンバーになっているが、より多くの人から意見をもらうためにホームの行事にあわせて開催し、メンバー以外の家族も参加できるようにしている。会議では、理念や自己評価結果について説明し、意見をもらっている。議事録はその都度市の担当課に提出している。今後は外部評価結果を議題にする予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の家族や知人の訪問が多く、庭の草取りなど施設の手入れには自主的に関わってもらっている。職員は、何でも話してもらえる雰囲気づくりのために、来訪者には積極的に声かけよう心がけている。また2ヶ月に1回は家族協力会を開催し、家族が意見を言える場を作っている。現在のところ、苦情や不安などはまだ寄せられていないが、日々の小さな要望等にも随時対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>笹だんごを作って近所の方にお裾分けしたり、お返しをもらったり、また、施設の祭りに近所の方を招待したり、地元の祭りの際に神輿を見に行ったりなど、地域の一員として交流している。今年は地元の敬老会にホームの利用者も参加する予定である。以前に授業の一環で訪問した高校生が、休みにボランティアとしてきてくれたりもする。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年10月の開設後、法人の他のグループホームの理念をベースに職員間で話し合い、「グループホームまきやま」独自の理念を作成した。更に理念を深めていくために、今後も自分たちの行いたいケアについて話し合いを続けていくことにしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務所、職員トイレに理念を掲示し、常に意識するよう心がけるとともに、理念について考えを深めるため、管理者と職員とで話し合いを行っている。		
	2 - 2	3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	理念に基づいた取り組みを写真に撮って、入居時に家族に理念を説明する際に使用し、理解を深めてもらっている。地域に対しては、理念を説明した文書を回覧している。さらに、管理者が老人会や民生委員の集まりに講師として招かれた時に、文書を配布して説明している。		
2. 地域との支えあい					
	3	5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	笹だんごを作って近所の方にお裾分けしたり、お返しをもらったり、また、施設の祭りに近所の方を招待したり、地元の祭りに神輿を見に行ったりなど、地域の一員として交流している。今年は地元の敬老会にホームの利用者も参加する予定である。以前に授業の一環で訪問した高校生が、休みにボランティアとしてきてくれたりもする。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員に自己評価のシートを配布し記入してもらうことで、開設以来取り組んできた自分たちのケアの振り返りになったと受けとめている。自己評価の結果をもとに、庭や外に面した居室のはき出し窓の鍵を開放するなど、利用者や家族にも説明しながら具体的な改善に取り組み始めている。		
	5	8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年5回、同じ敷地内のグループホームと協働できるところは合同で実施している。利用者と家族が2名ずつメンバーになっているが、より多くの人から意見をもらうためにホームの行事にあわせて開催し、メンバー以外の家族も参加できるようにしている。会議では、理念や自己評価結果について説明し、意見をもらっている。今後は外部評価結果を議題にする予定である。		議事録はその都都市の担当課に提出しているが、今後はより多くの人に内容を理解してもらえよう、グループホーム内で議事録をいつでも誰でも見れるよう公開することを検討してはどうか。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長年、地域で福祉サービスを展開してきた社会福祉法人であり、法人として行政との協働関係が築かれている。市の担当者とも日頃から相談しやすい関係ができています。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として、毎年虐待防止に関する研修会を実施している。業務等で参加できない職員には伝達講習を行い、全職員が虐待防止について理解を深められるよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常的に家族の訪問は多く、日々の様子はその都度報告している。また、定期的に発行される法人の広報紙を家族に配布している。職員の異動の際には、写真入りの文書を作成して配布している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族や知人の訪問が多く、庭の草取りなど施設の手入れには自主的に関わってもらっている。職員は、何でも話してもらえる雰囲気づくりのために、来訪者には積極的に声かけするよう心がけている。また、2ヶ月に1回は家族協力を開催し、家族が意見を言える場を作っている。現在のところ苦情等は寄せられていないが、日々の小さな要望等にも随時対応している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には管理者も出席し、職員の要望を聞く機会としている。職員から外出企画や敷地内の託児所との交流などの提案があり、それを活かして実施している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	多くの事業所を持つ法人でありやむを得ず職員の異動は行われるが、一度に多人数の異動がないようにしている。異動がある場合には利用者や家族に理解してもらい不安を軽減できるよう、挨拶する機会を作ったり、職員の写真入りの文書を配布するなど工夫している。異動後も、関係性を維持できるよう利用者や接する機会を設けている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しに適宜行われている	介護・業務マニュアルや感染症対策マニュアルなどを整備し、事務室の見やすいところに置いて職員で共有している。年度初めには必ず見直しをしているほか、それ以外にも必要に応じて随時見直ししており、変更箇所には付箋をつけて職員にわかりやすいようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の教育体制を確立しており、細やかな指導を行っている。また、敷地内に隣接する施設合同で月1回の内部研修と事例検討会を実施したり、年3回の法人内研修を実施するなど、定期的に研修機会が持たれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の4つのグループホームの部会を毎月1回開催している。部会では、その月ごとに、意見交換をしたり、課題検討という形で勉強会を実施したりしている。また、他法人のグループホーム職員の実習を受け入れており、今後は交換研修を計画する予定である。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員の様子に気を配り、面接など話を聞く機会を設けて、相談やアドバイスをしている。また、休憩の際は業務から離れて気分転換できるよう、休憩室を確保している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、敷地内にある同法人の他グループホームのゲストルームを使用して、宿泊体験していただくなど、共同生活に慣れてもらうよう工夫している。入居後の本人の不安を軽減するために家族にも協力してもらいたい旨を予めお願いし、場合によっては家族と一緒に泊まってもらったり、慣れるまで頻りに面会に来てもらうなどしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との会話の中で、好きなことや得意なことを聞き、一人ひとりの状態を見極めながら、できることをしてもらっている。畑での野菜作りでは、苗と一緒に買いに行き利用者の良い苗を選んでもらったり、植え方や作り方を教えてもらうなど、職員が教えてもらう場面作りをしている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族が「家族協力会」を作っており、庭の草取りや手入れなどには率先して参加してくれている。また、利用者の健康状態や様子などについて職員と家族とが話し合い、必要に応じて受診に連れて行くなど、協働して本人を支援する関係ができています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との日常の関わりや家族との会話の中で、要望や意向の把握に努めている。各職員が得た情報は、朝夕のミーティングで話し合うとともに、パソコンの記録システムを使って共有している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前訪問の際、許可を得て部屋の写真を撮り、ホームでの居室環境づくりなどに役立てている。また、本人や家族から話を聞いたり、利用してきたサービス事業所から経過を聞くなどして情報収集し、センター方式のアセスメント様式を活用して把握・共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と職員が話し合いながら介護計画を作成している。介護計画は、家族と職員が共有しやすく実施しやすいよう、わかりやすい表現と内容にしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直しが行われているほか、家族の日常的な関わりが多いので、状態に変化がある時は、その都度家族と職員が話し合い、必要に応じて介護計画の変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する同法人施設には多様なサービスメニューがあり、要望に応じて、筋力トレーニング等パワーリハビリに通ったり、他施設のレクリエーションに参加できるよう支援している。また、敷地内の他施設との兼務で看護師が配置されており、健康相談やアドバイスを受けることもできる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれの主治医は、本人や家族の希望する医師である。受診は原則として家族が同行しており、その都度ホームでの様子を伝える介護連絡票を作成して渡し、医師に適切に情報伝達をしている。受診の結果は当日に家族から報告を受け、情報を把握している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化対応指針により、ホームでできること・できないことや、ホームでの看取りは行わない旨を説明している。利用者の状態変化に合わせてその都度本人や家族と話し合いをもち、法人内の特別養護老人ホーム等への移行なども含めて、本人が適切なケアや医療を受けられるよう支援することとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしていない。書類は鍵のかかる保管庫で管理し、個人の記録はパスワードにより外部の者が開けないパソコンで管理している。職員は、同一敷地内の特別養護老人ホームが年1回実施する個人情報保護に関する研修会に参加し、理解を深めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決めているが、一人ひとりのペースや体調、要望等を尊重して過ごしてもらえるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑に野菜を収穫に行く人、採れた野菜をどんな料理にするか相談する人、調理する人などそれぞれに役割分担して食事づくりが行なわれている。また、日常的な買い物にも利用者と職員が一緒に出かけており、食材選びにも関わってもらっている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パソコンと端末機器による記録システムを活用して、利用者全員の排泄パターンをタイムリーにチェックし、把握している。一人ひとりの排泄パターンに応じて、失敗を軽減して気持ちよく排泄できるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はいつでもできるようになっている。畑仕事の後がよい、一番風呂に入りたい、同性介助してほしいなどの一人ひとりの希望にあわせて、入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、家事、生け花、縫い物、畑仕事など、一人ひとりの好きなことや得意なことを把握し、生活の中で役割が見いだせるよう工夫している。また、特別養護老人ホームなど隣接する他施設と合同のお祭りのバザーに出す作品作りなど、張り合いを持てる場面づくりをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、利用者の意向を伺いながら散歩に出かけ、敷地内の池の鯉やヤギなどの動物を見るなど楽しんでいる。また、日常的に食材の買い物に出かけたり、定期的に行われる市にも出かけている。車を使って花見や市内の名所に出かけるなど、外出行事の機会も多い。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回身体拘束に関する内部研修を実施し、隣接施設合同で構成している委員会で、日々のケアについて検証している。身体拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関やリビング鍵はかけていない。一人で外へ出ようとされる利用者には、職員がそっと見守りしている。以前は安全確保のため、居室のはきだし窓の鍵をかけていたが、今回の自己評価を機会に検討し、本人や家族へ説明して、現在は10時から17時まで鍵をかけずに自由に出入りできるようにしている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故・ヒヤリハットの報告書を活用し、事故等あったときは当日もしくは翌日に改善策を検討して、再発防止に役立っている。		よりいっそうの再発防止につながるよう、事故後の改善策は有効であったか、更なる検討が必要かどうか、評価・検証する仕組みづくりを期待したい。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	職員は救急法の講習を受講している。また、事故発生時や緊急時の対応をフローチャートにして事務室の見やすい場所に掲示し、すぐに確認できるようにしている。		職員の技術や自信、安心感がさらに高まるよう、ホームで起こりうる事態を想定した訓練を定期的・継続的に実施することを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年2回避難訓練を実施しており、近所の方2名にも日頃から災害時の協力をお願いして参加してもらっている。食料や水、暖房器具等は隣接する特別養護老人ホームに備蓄されており、災害時は協力する体制になっている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時に「栄養カルテ」を作成し、好き嫌いの把握のほかに管理栄養士から1日のおおまかな必要エネルギー量を算定してもらっている。食事量や水分量が少ないときは、職員間で情報を共有し、必要量を確保できるよう食形態を変えるなどして支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日本家屋風の外観で、内装も落ち着いた雰囲気である。桐材の床は心地よく、素足で歩く利用も多い。ダイニングテーブル、テレビ前のソファ、和室の畳など、その時自分が過ごしたい所で、庭などを眺めながらゆったりと過ごすことができるよう工夫されている。また、不快な音や光、においなどはなかった。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に自宅の部屋の写真を撮らせてもらい、それを参考に、本人や家族と相談しながら使い慣れたタンスや好みの物を持ち込んで居心地のよい居室づくりをしている。また、夏はすだれをかけるなど、季節に応じた工夫がされている。</p>		